

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数			
生命健康 科学部 理学療法 学科	6人	4人	0人	0人	10人	6人	6人	0人	18人	17.5人
計	6人	4人	0人	0人	10人	6人	6人	0人	18人	—

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授で きる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の 知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分類 (基礎・ 専門基 礎・専 門)	指定規則 教育内容	担当授業科目名	担当コ マ数	担当教員	
				氏名	職名 (専 任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	スタートアップセミナー	15	小林 正典、高松 泰行 宮下 浩二、對馬 明、 戸田 香、加藤 智香子、 上村 和秀、武田 湖州恵、 松田 輝	専任
		英語スキルI	15	大門 正幸、他	兼任
		英語スキルII	15	大門 正幸、他	兼任
		英語スキルIII	15	西村 智、他	兼任
		英語スキルIV	15	西村 智、他	兼任
		日本語スキルA	15	上田 美紀、他	兼任
		日本語スキルB	15	千葉 軒士	兼任
		情報スキル入門	15	鈴木 知治、他	兼任
		情報スキル活用	15	山田 裕子	兼任
		留学英語A (TOEFL)	15	小栗 成子	兼任
		留学英語B (TOEFL)	15	小栗 成子	兼任
		資格英語A (英検)	15	今村 洋美	兼任
		資格英語B (TOEIC)	15	今村 洋美	兼任
		イングリッシュワークショップ	15	Kevin Jambor	兼任
		パセオアカデミックL&S A	30	Adam Martinelli	兼任
		パセオアカデミックL&S B	30	Adam Martinelli	兼任
		パセオアカデミックR&W A	30	Adam Martinelli	兼任
		パセオアカデミックR&W B	30	Adam Martinelli	兼任
		パセオコンテンツA	15	Adam Martinelli	兼任
		パセオコンテンツB	15	Adam Martinelli	兼任
		ドイツ語入門 I	15	磯村 尚弘	兼任
		ドイツ語入門 II	15	中川 拓哉	兼任
		フランス語入門 I	15	松浦 宏信	兼任
		フランス語入門 II	15	玉田 敦子	兼任
		中国語入門 I	15	中野 麻里子	兼任

	中国語入門Ⅱ	15	中野 麻里子	兼任
	スペイン語入門Ⅰ	15	Ruben Figueroa	兼任
	スペイン語入門Ⅱ	15	Ruben Figueroa	兼任
	ポルトガル語入門Ⅰ	15	Dias Hadama Patricia	兼任
	ポルトガル語入門Ⅱ	15	田中 高	兼任
	韓国語入門Ⅰ	15	世古口 真	兼任
	韓国語入門Ⅱ	15	世古口 真	兼任
	実践外国語A	15	岡崎 敏	兼任
	実践外国語B	15	岡崎 敏	兼任
	語学研修A	15	今村 洋美	兼任
	語学研修B	15	今村 洋美	兼任
	世界の歴史と日本	15	西山 伸一	兼任
	日本の歴史と文化	15	和崎 聖日	兼任
	芸術の世界	15	水村 さおり	兼任
	芸術の表現	15	水村 さおり、他	兼任
	映像を読む	15	和崎 聖日	兼任
	教育をみつめて	15	John Gathright	兼任
	哲学と思考	15	三浦 太一	兼任
	現代社会と法	15	梅川 佳子	兼任
	日本の憲法	15	梅川 佳子	兼任
	政治と社会	15	安武 裕和	兼任
	現代経済とビジネス	15	小山 太郎	兼任
	生活環境と人間	15	大橋 岳	兼任
	心と身体	15	荒川 尚子、他	兼任
	数学の思考法	15	相川 弘明	兼任
	物理と自然	15	小井 辰巳	兼任
	化学と物質	15	幅上 茂樹	兼任
	生物と環境	15	土田さやか、他	兼任
	生命と医療	15	矢澤 浩成、他	兼任
	科学技術と社会	15	黒川 卓	兼任
	地球と生命	15	工藤 健	兼任
	データサイエンスのための数理要論	15	奥島 輝昭	兼任
	問題解決のための統計学入門	15	後藤 振一郎	兼任
	リベラルアーツ課題演習A	15	鈴木 順子	兼任
	リベラルアーツ課題演習B	15	久米 一世	兼任
	リベラルアーツ課題演習C	15	松村 亜矢子	兼任
	自己開拓A	15	寺澤 朝子	兼任
	自己開拓B	15	大橋 岳	兼任
	人類と資源	15	工藤 健	兼任
	持続学のすすめ	15	山羽 基	兼任
	地域の防災と安全	15	杉井 俊夫	兼任
	地球を観る	15	工藤 健	兼任
	グローバル環境論	15	山田 裕子	兼任
	地域共生実践	15	竹内 環	兼任

	健康科学	15	梅寄 周毅	兼任	
	スポーツA	15	松岡 大介	兼任	
	スポーツB	15	松岡 大介	兼任	
	スポーツC	15	櫛田 亮介	兼任	
	スポーツ活動A	15	梅寄 周毅	兼任	
	スポーツ活動B	15	梅寄 周毅	兼任	
	スポーツ活動C	15	梅寄 周毅	兼任	
	スポーツ活動D	15	梅寄 周毅	兼任	
	スポーツ活動E	15	梅寄 周毅	兼任	
	スポーツ活動F	15	梅寄 周毅	兼任	
	スポーツ活動G	15	梅寄 周毅	兼任	
	スポーツ活動H	15	梅寄 周毅	兼任	
	生命科学入門	8	上村 和秀、武田 湖州恵	専任	
	医科学入門	8	平松 武幸、他	兼任	
	生と死の文化人類学	15	榎原 明、他	兼任	
	医療英語A(専門基礎系)	8	平松 武幸	兼任	
	医療英語B(理学・作業専門系)	8	對馬 明 向 文緒	専任 兼任	
	統計学	15	加藤 智香子	専任	
専門基礎 心身の発達	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖・組織学	15	榎原 明	兼任
		生理学	15	佐藤 純、松田 輝 片野坂 公明	専任 兼任
		生化学	8	上村 和秀 岩田 悟	専任 兼任
		栄養治療学	8	谷口 いつか	兼任
		生命物理化学	15	山口 誠二	兼任
		分子生物学概論	8	山下 均	兼任
		臨床解剖学	8	小林 正典 平山 正昭	専任 兼任
		臨床解剖学実習	22.5	西沢 祐治、他	兼任
		人体構造学演習	15	富永 敬三	兼任
		体表解剖学実習	22.5	宮下 浩二 宮本 靖義	専任 兼任
		臨床生理学	8	松田 輝 青山 友佳、他	専任 兼任
		臨床生理学実習	22.5	佐藤 純、高松 泰行 松田 輝 中川 与四郎、他	専任 兼任
		運動学	15	對馬 明 岡野 昭夫	専任 兼任
		健康増進学	8	對馬 明 津田 智子	専任 兼任
		人間発達学	8	伊藤 玲子	兼任
疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	生命工学入門	8	小林 正典、松田 輝 岡野 昭夫、他	専任 兼任	
	病理学	8	喬 善樓、他	兼任	
	臨床病理学	8	山本 幸也	兼任	

		臨床心理学	8	牧瀬 英幹	兼任
		生涯人間発達論	8	津田 聰子	兼任
		薬理学	8	上村 和秀	専任
		微生物学	15	伊藤 守弘、他	兼任
		免疫学	8	武田 湖州恵 川本 善之、他	専任 兼任
		疾病病態学概論	15	山本 幸也	兼任
		疾病治療学概論	15	山本 幸也、他	兼任
		内科学	8	平松 武幸、他	兼任
		外科学	8	平手 裕市	兼任
		一般臨床医学	8	平手 裕市	兼任
		臨床神経学	15	平山 正昭、他	兼任
		精神医学	15	牧瀬 英幹	兼任
		老年医学	8	小林 正典 平山 正昭、他	専任 兼任
		整形外科学	15	小林 正典	専任
		小児科学	8	馬場 礼三	兼任
		臨床検査総論	8	青山 友佳	兼任
		放射線医学総論	15	伊藤 守弘、他	兼任
		スポーツ医学	8	宮下 浩二 北辻 耕司	専任 兼任
		栄養と疾病予防	8	田島 織絵	兼任
		臨床心理学演習	15	牧瀬 英幹	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	8	小林 正典	専任
		公衆衛生学	15	坪井 秀夫	兼任
		環境衛生学	15	近藤 文雄、他	兼任
		学校保健学	8	津田 聰子	兼任
		生命倫理学	8	安林 奈緒美	兼任
		社会福祉学	8	坂野 尚美	兼任
		リハビリテーション医学A (総論・神経系)	8	小林 正典 平山 正昭、他	専任 兼任
		リハビリテーション医学B (運動器系)	8	小林 正典	専任
		精神障害リハビリテーション	8	奥村 務	兼任
		リハビリテーション工学	8	岡野 昭夫、他	兼任
専門	基礎理学療法学	理学療法の基礎A	15	富永 敬三	兼任
		理学療法の基礎B	15	高松 泰行 宮本 靖義	専任 兼任
		運動学実習	22.5	宮下 浩二	専任
		臨床運動学実習	22.5	矢澤 浩成	兼任
		理学療法研究法	15	小林 正典、 宮下 浩二、對馬 明、 高松 泰行、戸田 香、 加藤 智香子、上村 和秀、 武田 湖州恵、松田 輝 宮本 靖義、富永 敬三、 矢澤 浩成	専任  兼任

	理学療法管理学	理学療法管理学	15	對馬 明、高松 泰行 戸田 香	専任
	理学療法評価学	理学療法評価学	15	戸田 香	専任
		理学療法評価学演習	15	戸田 香 矢澤 浩成	専任 兼任
		理学療法評価学実習	22.5	對馬 明、戸田 香 矢澤 浩成	専任 兼任
		臨床理学療法評価学演習	15	戸田 香 矢澤 浩成	専任 兼任
		疾患別評価学実習	45	小林 正典、宮下 浩二、 對馬 明、高松 泰行、 戸田 香、加藤 智香子、 松田 輝 宮本 靖義、富永 敬三、 矢澤 浩成	専任 兼任
	理学療法治療学	日常生活活動治療学	15	加藤 智香子、松田 輝	専任
		日常生活活動治療学演習	15	宮本 靖義、富永 敬三	兼任
		運動障害理学療法学	15	對馬 明 山口 誠二、矢澤 浩成	専任 兼任
		中枢神経障害理学療法学	15	佐藤 純、高松 泰行 宮本 靖義、澤田 泰洋	専任 兼任
		内部障害理学療法学	15	戸田 香、武田 湖州恵	専任
		スポーツ外傷系理学療法学	15	宮下 浩二	専任
		発達障害理学療法学	15	宮本 靖義	兼任
		運動器系理学療法学実習	22.5	對馬 明 矢澤 浩成	専任 兼任
		中枢神経系理学療法学実習	22.5	高松 泰行 矢澤 浩成	専任 兼任
		内部障害・メタボリック科学演習	15	對馬 明、戸田 香	専任
		スポーツ外傷系理学療法学演習	15	宮下 浩二	専任
		発達障害理学療法学演習	15	宮本 靖義	兼任
		物理療法学	8	松田 輝	専任
		物理療法学実習	22.5	戸田 香、松田 輝 富永 敬三	専任 兼任
		義肢装具学	8	矢澤 浩成、宇野 秋人	兼任
		義肢装具学演習	15	矢澤 浩成、宇野 秋人	兼任
		理学療法事例研究演習A (内部障害系)	15	宮下 浩二、高松 泰行、 戸田 香 富永 敬三	専任 兼任
		理学療法事例研究演習B (筋骨格障害系)	15	對馬 明、加藤 智香子 宮本 靖義、矢澤 浩成	専任 兼任
		理学療法事例研究演習C (中枢神経障害系)	15	松田 輝 宮本 靖義	専任 兼任
	理学療法評価学 理学療法治療学	卒業研究	60	小林 正典、宮下 浩二、 對馬 明、高松 泰行 戸田 香、加藤 智香子、 上村 和秀、武田 湖州恵、 松田 輝	専任
	地域理学療法学	地域理学療法学	15	加藤 智香子	専任
		地域リハビリテーション学演習	15	戸田 香	専任

			矢澤 浩成	兼任
	老年期障害理学療法学	8	加藤 智香子	専任
	老年期障害理学療法学演習	15	加藤 智香子	専任
臨床実習	臨床見学実習	—	小林 正典、宮下 浩二、 対馬 明、高松 泰行、 戸田 香、加藤 智香子、 松田 輝 宮本 靖義、富永 敬三、 矢澤 浩成	専任 兼任
	地域リハビリテーション実習	—	小林 正典、宮下 浩二、 対馬 明、高松 泰行、 戸田 香、加藤 智香子、 松田 輝 宮本 靖義、富永 敬三、 矢澤 浩成	専任 兼任
	臨床評価実習	—	小林 正典、宮下 浩二、 対馬 明、高松 泰行、 戸田 香、加藤 智香子、 松田 輝 宮本 靖義、富永 敬三、 矢澤 浩成	専任 兼任
	臨床総合実習	—	小林 正典、宮下 浩二、 対馬 明、戸田 香、 加藤 智香子、松田 輝、 高松 泰行 宮本 靖義、富永 敬三、 矢澤 浩成	専任 兼任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床見学実習	1年後期	リハビリテーション概論	1年後期
地域リハビリテーション実習	2年後期	地域理学療法学	2年後期
臨床評価実習	3年後期	疾患別評価学実習	3年後期
臨床総合実習	4年前期	疾患別評価学実習	3年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	幅上 茂樹 副学長
組織の開催頻度	1年に3回
組織の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 大学全体としての自己点検・評価</li> <li>- 各組織、部署における自己点検・評価</li> </ul>
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表 (URL : <a href="https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/">https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/</a> )

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	シラバス第三者点検
	委員構成等	点検責任者（理学療法学科主任）およびその責任者が選出した教員
	改善の仕組みの実際	科目ごとに定められた「カリキュラムの中での位置付け」の観点からシラバスの第三者点検を点検責任者およびその責任者が選出した教員により行い、シラバス記載内容を改善している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・自己評価の結果をふまえ、ピアレビュー委員会（学内他組織による外部評価組織）からの提言より改善策を検討する。